

この鐘楼は 17 世紀後半に東光寺が建造された直後に造られたと考えられている。鐘楼の大きな鐘は達磨の鐘とも呼ばれている。この鐘は地元の鋳物師、群司父子によって鋳造され、第四代藩主吉広公によって寄進された。鐘の表面には、東光寺開山の慧極禅師の名が刻まれている。

今日、東光寺ではその鐘と太鼓は年末の儀式のときのみ利用されている。住み込みの僧侶がいる寺院では、同様の鐘が日々の祈りなどで定期的に使われている。